

港区立御成門小学校
平成27年度 授業改善推進プラン

<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法 ・学習指導要領 ・都・区教育目標 	教育目標 ○よく考え進んで学ぶ子 ○力を合わせやりとげの子 ○心も体もたくましい子	[児童の実態] ・明るく素直であり、上学年は下学年に優しく親切に接する。 ・論理的に考え、その考えを説明したり文章にまとめたりする力に課題がある。 [地域の実態] ・教育への関心が高く、地域の行事、地域活動を継続的に行っている。 [保護者の実態] ・「確かな学力を身に付け、心豊かな人間に育てほしい」という願いをもっている。
---	---	---

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

☆きめ細かな学習指導を実践し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、それらを活用して課題を解決することなどを通して、思考力・判断力・表現力、その他の能力を育むとともに、児童一人一人に応じた確かな学力を身に付けさせる。

☆授業時数を確保するとともに、指導計画を見直し、児童が無理なく意欲的に学習に取り組めるようにする。

☆児童の実態に応じた多様な教育活動を通して、児童一人一人に「わかった」「できた」体験を積ませることを通じて意欲を育てるとともに、一つ一つの課題に丁寧に取り組みさせることを通じて、最後までやり遂げる体験を日常的に積ませていく。

各教科の指導の重点を確実に身に付けさせるため次の取り組みを行います。

道徳教育の指導の重点	教科名	取組内容	生活指導の重点
・生命を尊重する心を基礎とし、社会生活に必要な規範意識をもたせ、道徳的な心情、判断力、態度を養う。 ・道徳的価値の自覚を深めるため、指導資料の工夫や日常生活に関連したテーマによる講演会を設け、心に響く授業を推進し、道徳的実践力を育てる。 ・家庭や地域社会と共に児童の心を育てる教育の充実を図る。	国語	・発達段階に応じた話型や話し合いのルールを指導し、自分の考えを整理してから発表する習慣を付ける。 ・題材や条件を工夫して、短文の指導を積み重ねる。観点を明示し、自分で遂行する力を身に付ける。 ・学習の目当てを明確に示して、学習計画に自分の考えをもったりまとめたりする活動を位置づける。 ・各学年の説明的文章の構成について理解した後、条件にあった説明文を書く活動を取り入れる。 ・辞書を引く習慣を付け（3年生以上）語彙を増やすとともに、反復練習をして定着を図る。	・全教育活動を通して、児童理解に努め、児童一人一人の内面にに関わりながら、共感的理解に基づいた生活面の指導を行う。 ・基本的な生活習慣の確立を図り、児童自らの言動について、善悪を主体的に判断し、自らを律して行動できる児童を育て落着いた学校を目指す。 ・学校生活におけるアンケートを定期的実施し、児童相互の人間関係を適切に把握すると共に、いじめの未然対応に努める。 ・特別支援委員会との連携を図り、配慮が必要な児童の心身の状態を十分に把握し、適切な支援及び、支援体制を整える。
	社会	・児童自らが学習課題を設定できるようにするために、導入時に提示する資料を十分吟味する。 ・考えるべき内容を明確にして追究活動にあたらせる。 ・課題解決のための資料を十分に準備し、その中から「必要な資料の選択」「各資料の読み取り」「学習課題に対する自分の考えのまとめ」という課題解決学習を展開する。 ・集団で思考を練り上げる話し合いの場を設ける。	
	算数	・演算決定の根拠を、図を用いて説明する活動を指導計画に位置づける。 ・価値ある表現内容をノートに記録する時間を確保する。 ・学習内容を振り返ることのできる復習プリントを活用し、基礎的・基本的な内容の確かな定着を図る。	
	理科	・体験を重視し、自分たちでどのような実験が必要かを考える授業を設定する。 ・既習事項と資料などから読み取った情報、獲得した知識を生かして、思考表現する場を工夫し設定する。 ・基礎的、基本的な学習内容の定着を図るため、内容を吟味して、ワークシートを活用する。	
総合的な学習の重点 ・各教科の横断的縦断的な取り組みを計画する。 ・追究課題を明確にして児童自らが計画方法、考察まで取り組める力を育成する。 ・追究した内容をわかりやすく表現する力を育成する。	生活	・学習の対象になる物を児童の周りに置き、いつでも学習対象に関われるようにする。 ・「見て」「聞いて」「さわって」何が分かるなどの視点を示し、様々な気付きが生まれるようにする。 ・体験したことを共有できる機会や自分の生活体験と結びつけて考えたことを発表できる機会を多くし、生活視野を広げられるようにする。	進路指導の重点 ・全教育活動を通して、児童が自らの将来に向けて自己実現を図ろうとする態度を育成する。
	音楽	・グループ活動を工夫し、友達同士で助け合う場を設定し、表現、鑑賞に関する関心を高める。 ・児童が曲の特徴をつかみ、実際に表現できるような曲を選ぶ。 ・友達と一緒に演奏する機会を設定し、友達の演奏のよさに気付いたり、自分の演奏に結びつけたりする活動を取り入れる。 ・技能を高めるために、より効果的な学習形態（個人、グループ、一斉）を考える。 ・器楽では、一人一人の課題を明確にして、練習を進められるようにする。	
	図工	・主体的に活動できるように、テーマを探ったり、材料と関わったりする時間を設定する。 ・自由な発想が生まれやすくなるように材料コーナーを充実させる。	
	家庭	・よりよい工夫を考える機会を多く設定し、その考えを発表するなどして他者と共有するようにする。 ・手縫いの課題を設定し、基本的な技能の定着を図る。	
	体育	・体づくり運動を継続する。朝運動を計画的に継続する。そして、体力の向上を目指す。 ・基礎体力を高められるような場を作っていく。（例：的当て、ステップアップジャンプ など） ・効果的な声かけや学習シートの活用をする。	
	国際	・N.T.とHTの連携を深め、発達段階に応じたねらいを明確にした授業を展開する。 ・中学年ではアルファベットや簡単な単語の読み書き、高学年では簡単な文の読み書きの活動を増やす。 ・振り返りの時は、「楽しかった」だけでなく何を学習したのか、きちんと振り返りをさせる。	

本校の授業改善に向けた視点				
教育課程編成上の工夫	指導内容・指導方法の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○授業前に、朝の運動（毎週 木曜日）、朝の読書タイム（火、水、金曜日）を設定する ○土曜授業日にセーフティ教室や児童主体の活動（御成門フェスティバル）などの行事を計画的に実施し、年間の授業時数を確保する。	▲主体的・意欲的に学習が継続できるような教材・教具の工夫・開発に努める。 ☆ICTを活用した授業を計画・実践する。 ○体験的な活動や問題解決型学習を展開する。 ○少人数コース別学習を実施し、一人一人の疑問や追究方法に応じながらきめ細やかな指導を図る。 ○文章を読み解く力を伸ばすために言語の着目し、その言葉から考えたことや感想を述べ合う活動を指導計画に位置づける。 ☆意欲的に取り組ませるため、単元終了時のゴールイメージをもたせ、学習計画を明示する。	▲児童一人一人の疑問や考え、学習内容の習得状況を丁寧に見取る。 ○授業観察の評価、外部評価をもとに授業改善を図る。	▲獲得した知識・技能を活用する学習活動の工夫を図る。活用力を高めるために思考力・表現力を育成する授業を積み重ねる。 ▲追究活動後に自ら考えたことや感想などを交換し合う場を意図的に設定し、言語活動を充実させる。 ○自尊心、自己肯定感を高めるために、児童相互の認め励まし教え合う場を設定した授業を構築する。 ○説明的文章を読み解く力、主体的に表現する力の育成に向け、分科会ごとの研修、全体研究会を計画的に実施する。 ○研究授業や自主研修等を通して教員の授業力を高める。	▲地域の人材や教材を生かした授業を行い、問題解決力や思考力、表現力を育てる。授業協力者の体験談や思い、願いなどを聞く場を設け、自分を振り返り、自分の生き方・考え方に生かすことができるようにする。 ○学校公開、道徳授業地区公開講座を充実させ、学校の教育活動に対する保護者、地域の理解を図る。年2回アンケートをとり、考察し、教育活動の改善に役立てる。

☆→今年度からの取組み ○→定着・継続している取組み ▲→活性化が必要な取組み